



## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月28日

上場会社名 山洋電気株式会社

上場取引所 東

コード番号 6516 URL <http://www.sanyodenki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 山本 茂生

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務経理担当 (氏名) 塚田 明

TEL 03-3917-5151

四半期報告書提出予定日 平成22年11月11日

配当支払開始予定日

平成22年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	32,467	114.9	2,479	—	2,231	—	2,086	—
22年3月期第2四半期	15,106	△46.3	△3,157	—	△2,821	—	△3,155	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	33.58	—
22年3月期第2四半期	△50.87	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	70,980	33,565	46.5	530.70
22年3月期	66,614	32,444	47.9	512.86

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 32,981百万円 22年3月期 31,875百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
23年3月期	—	5.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	6.00	11.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	68,200	60.5	4,900	—	4,600	—	4,000	—	64.36

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）  
(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 64,860,935株 22年3月期 64,860,935株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 2,713,510株 22年3月期 2,709,402株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 62,149,154株 22年3月期2Q 62,031,110株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、一部の市場に需要回復が見られたものの、欧米の景気減速懸念や急激な円高の進行により、先行きが不透明な状況のまま推移しました。

そのような環境の中、当社グループの主要な顧客である工作機械・ロボット・半導体製造装置などの設備産業業界において、需要の回復を見込んでの注文の前倒しが多く見られました。

その結果、当第2四半期累計期間における連結売上高は32,467百万円（前年同期比114.9%増）となり、連結営業利益は2,479百万円、連結経常利益は2,231百万円、連結四半期純利益は2,086百万円となりました。また、受注高は37,155百万円、受注残高17,297百万円となりました。

事業部門別の営業概況は次のとおりです。

## クーリングシステム事業

クーリングシステム製品「San Ace」は、ファクトリーオートメーション業界の需要が、第1四半期から引き続き好調でした。表示機、太陽光発電、燃料電池、EVなどで多くの新規顧客が開拓できました。従来からの大口需要先であったサーバ業界や、通信装置業界における需要は国内、海外ともに堅調に推移しました。

その結果、売上高は8,431百万円（前年同期比62.5%増）、受注高8,742百万円（前年同期比54.3%増）、受注残高1,987百万円（前年同期比47.7%増）となりました。

## パワーシステム事業

パワーシステム製品「SANUPS」は、スクールニューディール向けをはじめとした、公共施設向け太陽光発電用パワーコンディショナの需要が回復し、プレスマシン・立体駐車場向けには瞬時電圧低下補償装置が堅調に推移しました。エンジン発電機は官公庁や通信業界向けに多くの需要がありました。

その結果、売上高は3,544百万円（前年同期比38.1%増）、受注高4,481百万円（前年同期比31.0%増）、受注残高2,808百万円（前年同期比23.2%増）となりました。

## サーボシステム事業

サーボシステム製品「SANMOTION」は、半導体業界、設備産業である工作機械・ロボット・射出成型機などの各業界がアジア市場向けを中心として急激に回復したため、需要が大幅に増加しました。

その結果、売上高は17,245百万円（前年同期比238.7%増）、受注高20,422百万円（前年同期比250.5%増）、受注残高7,731百万円（前年同期比308.9%増）となりました。

## 電気機器販売事業

産業用電気機器・制御機器および電機材料の販売は、医療機器関係、鉄道車両関係、太陽光発電関係など全般的に回復傾向がみられ、売上高は2,395百万円、受注高2,579百万円、受注残高4,206百万円となりました。

## 電気工事業

主な事業分野の製鉄関係のプラント設備工事、電機設備工事、発電電気設備工事の需要回復は遅く、補修工事もひかえる傾向が続きました。一方、新たな分野として加えた太陽光発電関係は堅調に推移しました。

その結果、売上高は849百万円、受注高930百万円、受注残高563百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産で4,366百万円、負債で3,245百万円、純資産では1,120百万円の増加となりました。

総資産の主な変動要因は、現金及び預金の増加1,061百万円、受取手形及び売掛金の増加1,607百万円、原材料及び貯蔵品の増加1,376百万円等によるものです。

負債の主な増加要因は、支払手形及び買掛金の増加2,151百万円、短期借入金の増加765百万円、長期借入金の減少402百万円等によるものです。

純資産の増加要因は、利益剰余金の増加1,838百万円等によるものです。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、7,097百万円となり、前連結会計年度末より1,168百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の営業活動による資金の増加は、1,465百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,977百万円、減価償却費1,250百万円、仕入債務の増加2,592百万円が、売上債権の増加2,247百万円、たな卸資産の増加2,860百万円を上回ったこと等によるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の投資活動による資金の減少は、456百万円となりました。これは主に、生産設備等の有形固定資産の取得による支出588百万円等によるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の財務活動による資金の増加は、482百万円となりました。これは主に、短期借入金の純増加額1,473百万円が、長期借入金の返済に伴う支出640百万円、配当金の支払246百万円を上回ったこと等によるものです。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の業績予想につきましては、平成22年4月27日発表の数値を修正していません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しています。

#### ② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

#### ③ 法人税ならびに繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっています。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しています。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,284	6,222
受取手形及び売掛金	19,523	17,916
有価証券	215	—
商品及び製品	2,927	2,593
仕掛品	4,310	3,346
原材料及び貯蔵品	6,673	5,297
未成工事支出金	148	165
未収入金	735	565
繰延税金資産	943	508
その他	1,558	1,939
貸倒引当金	△30	△31
流動資産合計	44,290	38,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,566	9,969
機械装置及び運搬具（純額）	3,425	3,614
土地	6,375	6,369
建設仮勘定	540	495
その他（純額）	705	657
有形固定資産合計	20,613	21,106
無形固定資産		
投資その他の資産	366	294
投資有価証券	3,684	4,581
繰延税金資産	1	—
その他	2,051	2,140
貸倒引当金	△28	△34
投資その他の資産合計	5,709	6,687
固定資産合計	26,689	28,088
資産合計	70,980	66,614

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,079	11,927
短期借入金	11,483	10,718
未払法人税等	223	140
役員賞与引当金	30	—
その他	4,588	3,512
流動負債合計	30,404	26,298
固定負債		
長期借入金	4,024	4,427
リース債務	998	1,067
退職給付引当金	540	533
繰延税金負債	113	359
再評価に係る繰延税金負債	1,119	1,119
負ののれん	205	343
その他	7	20
固定負債合計	7,009	7,870
負債合計	37,414	34,169
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,926	9,926
資本剰余金	11,460	11,460
利益剰余金	13,040	11,202
自己株式	△890	△888
株主資本合計	33,537	31,701
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△88	299
土地再評価差額金	657	657
為替換算調整勘定	△1,125	△783
評価・換算差額等合計	△556	173
少数株主持分	583	569
純資産合計	33,565	32,444
負債純資産合計	70,980	66,614



## (2) 四半期連結損益計算書

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	15,106	32,467
売上原価	14,432	25,414
売上総利益	673	7,053
販売費及び一般管理費	3,830	4,573
営業利益又は営業損失(△)	△3,157	2,479
営業外収益		
受取利息	12	15
受取配当金	46	49
助成金収入	263	15
負ののれん償却額	74	137
その他	85	51
営業外収益合計	483	269
営業外費用		
支払利息	85	79
為替差損	50	373
その他	11	65
営業外費用合計	147	518
経常利益又は経常損失(△)	△2,821	2,231
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	—
その他	6	—
特別利益合計	7	0
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	0	20
投資有価証券売却損	0	—
投資有価証券評価損	—	4
クレーム対策関連費用	—	209
役員退職慰労金	42	—
その他	—	19
特別損失合計	42	253
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,856	1,977
法人税、住民税及び事業税	79	273
法人税等還付税額	△29	—
過年度法人税等	△25	—
法人税等調整額	306	△427
法人税等合計	331	△153
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,131
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△33	44
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,155	2,086

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,856	1,977
減価償却費	1,344	1,250
売上債権の増減額(△は増加)	3,655	△2,247
たな卸資産の増減額(△は増加)	671	△2,860
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,755	2,592
その他	△968	927
小計	91	1,640
法人税等の支払額	306	△147
その他	△37	△27
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>360</b>	<b>1,465</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,087	△588
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	846	—
その他	598	131
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>358</b>	<b>△456</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	450	1,473
長期借入金の返済による支出	△574	△640
配当金の支払額	△245	△246
自己株式の取得による支出	△107	△2
その他	△64	△100
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△541</b>	<b>482</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	91	△322
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>268</b>	<b>1,168</b>
現金及び現金同等物の期首残高	5,227	5,928
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>5,496</b>	<b>7,097</b>

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。